報告

回想法で用いるプロンプトが認知症高齢者に及ぼす影響

佐藤弘美　天津栄子　金川克子　田高悦子*　酒井郁子**
細川淳子　伊藤麻美子　松平裕佳　元尾サチ***

概　要

回想法で用いるプロンプトが認知症高齢者におよぼす影響を分析した．グループ回想法 34 回の場面の参加者のプロンプトへの反応記録 169 シートの中から，特徴的な発言を取りだし，思考活動の高まりと対人交流の視点で分析した．音の刺激をもたらすプロンプトへの反応は，音を聞くことでさまざまな発言が得られた．食べ物のプロンプトへの反応は，食材を触って，その場で調理することで，日頃，食欲のあまりない参加者もじっくり味わうことを楽しんだ．ものを作る工程を回想するプロンプトへの反応は，梅干し作り，草鞋作りの工程を回想法の中で参加者が共に手を使って実体験し，そのもの作りにまつわる歌を口ずさむ参加者につられて，発言の少ない参加者も歌い始めることが何度もあった．回想法開始時に MMSE が 15 点以上の参加者はプロンプトを手がかりに自己の体験を話すなど，広がりのある回想が聞かれた．MMSE が 14 点以下の参加者は視覚情報だけでは回想にまつわる発言は少なかった．ただし，音を楽しむ，食べ物を味わう，香りを楽しむなど，五感刺激を手がかりとしたプロンプトへの感想を聞くことはできた．

キーワード　認知症高齢者，グループ回想法，プロンプト

１．はじめに

我々は過去５年間療養型病院において，認知症高齢者のグループ回想法を実施している．回想法は認知症ケアにおいて急速に展開され，いくつかの研修プログラムが実施されている[1]．回想法プログラムの有効性を見るために，１つは認知症高齢者の表情分析からみた研究[2]を行った．また，認知症高齢者のグループ回想法実施時の編集映像を作成し，家族やケアスタッフにその映像を見てもらい，その映像から認知症高齢者に回想法がもたらす有効性について発言してもらい，その内容を分析した[3]．さらに，認知症高齢者に対する回想法の意義と有効性に関する海外文献の検討を行ってきた[4]．松田ら[5]は，150 回にわたる回想法の集団心理療法の中で痴呆（認知症）進行に応じた働きかけの工夫について報告している．平林ら[6]は，グループケアプログラムとして回想法を認知症高齢者に実施し，セッションの場で対象者の持っている力が引き出された過程を明らかにしている．今回の研究では，回想法で用いるプロンプト（感覚＜五感＞を媒介とする材料，言語を媒介とする材料）が認知症高齢者におよぼす影響をＭＭＳＥとの関連で分析することが目的である．さらに，認知症の程度に応じたプロンプトの提示やアプローチ技法について検討する．

* 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻
** 千葉大学大学院看護学系研究科
*** 内灘温泉病院

２．研究方法

２．１　グループ回想法の実施方法と対象

対象は，平成 13 年度から平成 17 年度のグループケアプログラムに参加しているメンバー8 名である．

回想法開始時点で軽度～中等度の認知症であり，著しい視聴覚障害がない，毎回招待状による参加の確認を行っている．

グループケアプログラムは先行研究の方法[2]に基づき，週１回，１回１時間のセッションを連続 8 回実施した．プログラムの開催頻度については，1 年間の中で連続 8 回実施するプログラムが 2 クール(春期と秋期)と，連続して実施しない期間は１ヶ月に１回１時間のセッションを定期的に実施している．

２．２　データ収集方法

データは，2004 年 5 月～2005 年 10 月に行われたグループ回想法（34 回）の場面の個人記録用紙である．回想法個人記録用紙は，3 名の老年看

護の研究者（回想法のプログラム中は観察記録を担当する者）が，回想実施中に参加者の特徴的な言動や表情などについて，個人記録表（1 名につき A5 サイズ 1 シート）に記述した．

２．３　データ分析

グループ回想法参加者のプロンプトへの反応の記録（169 シート）を，特徴的な発言（回想法で用いるプロンプトに対する対象の言動）と，思考活動の高まりと対人交流（プロンプトがもたらした反応）と，プロンプトの反応とMMＳＥとの関係について，2 名の老年看護の研究者（回想法のプログラムの実施者と観察者）によって分析した．

２．４　倫理的配慮

グループ回想法への参加については，初回に認知症高齢者と家族へ研究の説明を行い，本人または家族から承諾を得た．更に，毎回の回想法時に招待状により本人への参加の意思を確認している．認知症高齢者のプライバシーの保護として，個人が特定されないようにデータ処理に配慮した．

３．結果

回想法で用いられたプロンプトと参加者の反応について，4 期（平成 16 年春，秋，平成 17 年春，秋）に分けて，テーマとそれに用いたプロンプトに対する参加者の特徴的な反応（主に本人の言動）を，認知障害の程度（Mini-Mental State Examination 以下 MMSE）との関連を重ねてデータを整理した．

３．１　対象の概要と回想法前後におけるＭＭＳＥ得点

対象の概要は表１に示す．MMＳＥ得点は，平成 16 年春・秋，平成 17 年春・秋の回想法開始前後 1 週間の得点を示す．MMＳＥ得点との関連から分析した結果，セッションの前後でMMＳＥ得点が改善した例 9，不変 4，悪化した例 10 であった．

３．２　回想法で用いるプロンプトに対する対象の言動（表２）

（１）　平成16年春のプログラム　参加者Ａ氏，Ｄ氏，Ｆ氏の反応

テーマ新緑の際のプロンプトとしての菖蒲を手にした A 氏は，湯の中に入れるものであること，五月に行うことであること，菖蒲湯に自分がよく入ったことを体験として話した．一方 F 氏は，カラスノエンドウを口にくわえて，スタッフが行ったまねをして吹こうとしたり，菖蒲を見てその名前を口にするのみであった．

郷土料理のテーマのすし桶や笹を見て，A 氏はハンカチをご飯に見立てて笹で巻いて，すし桶の中に入れる仕草が見られた．D 氏は押し寿司のサバは酢・砂糖・塩で味を整えると調理の仕方を説明した．F 氏は，スタッフが押し寿司の作り方を尋ねると「はい」や「うん」の返事を返すのみであった．

テーマ・夏の風物のプロンプトのうちわや風鈴

表１　対象の概要と回想法前後における MMSE 得点

対象	年齢 (H17.10 月現在)	主な疾患名	回想法開始年／開始時 MMSE 得点	平成 16 年春前 MMSE	平成 16 年春後 MMSE	平成 16 年秋前 MMSE	平成 16 年秋後 MMSE	平成 17 年春前 MMSE	平成 17 年春後 MMSE	平成 17 年秋前 MMSE	平成 17 年秋後 MMSE
A 氏	90 代前半	多発性脳梗塞、認知症、高脂血症	平成 14 年春前／24	19	25	23	24	17	25	23	17
B 氏	90 代前半	虚血性心疾患、糖尿病Ⅱ型	平成 16 年春前／21	21	22	19	19				
C 氏	80 代後半	糖尿病Ⅱ型、開放隅角緑内障	平成 13 年春前／16	22	26	25	20	22	23	19	22
D 氏	80 代前半	慢性心不全、左大腿骨頸部骨折	平成 15 年春前／15	19	19	23	20				
E 氏	80 代前半	糖尿病Ⅱ型、高血圧、胆石症、認知症	平成 17 年春前／15					15	18		
F 氏	90 代後半	高血圧、動脈硬化症、右大腿骨頸部骨折	平成 14 年春前／14	15	16	15	14	17	12	14	9
G 氏	80 代後半	関節リウマチ	平成 13 年春前／12					14	13	11	11
H 氏	90 代前半	認知症、慢性腎不全	平成 13 年春前／10	15	15	16	13	13	9	5	0

について，A 氏は風鈴を手にして何度も音を鳴らして，「いい音がする」と発言した．うちわに書かれた蛍を見て，「小さいのが川におった」と話す．蚊とり線香や蚊帳をみて，D 氏の反応は，「蚊帳は大きいね，みんな入るのが大変や」と周囲の状況と関連した発言が聞かれた．風鈴を手にした F 氏は嬉しそうな表情で，揺らして音を鳴らしていた．うちわに書かれた蛍を見て，蛍の歌をみんなと一緒に口ずさんだ．

お手伝いのテーマでは，A 氏は小学校のころ縄をなってお金をもらったと全身で縄をなう仕草がみられた．D 氏は買い物かごのプロンプトを見て，野菜を買って買い物かごに入れたと話した．手ぬぐい雑巾のプロンプトを見て，家中の板の間を何回も拭いたと話した．F 氏はプロンプトへの反応は少なく，参加者の一人が二宮金次郎の歌を歌いだすと一緒に歌い出した．

テーマ・駄菓子のときのプロンプトがラムネであるときの反応として，A 氏はラムネの栓をスタッフと一緒に開けるときとても興味ある表情を示した．駄菓子のドロップのカンを見て D 氏は「よく食べた．今はこんなん売ってない」と話した．F 氏は自らの発言は少なく，ラムネをみんなで飲むときにおいしそうにゆっくり飲んでいた．

（2） 平成16年秋のプログラム　参加者A氏，B 氏，C 氏，D氏，F 氏，H氏の反応

テーマ・子育てでは，子どもがつづらに入っている写真を見て，「つづらの中で子どもが喜んでいた」．土間で縄をなっている写真を見て，お尻になった縄を敷いていくと解説してくれた．B 氏は子育てのテーマを聞いて母乳があまり出なかったと話した．子どもがつづらに入っている写真を見て，「次郎物語みたい」と話した．子守歌を口ずさんだ．C 氏は自分は母乳で育った．縄ないをしている写真を見て，自分も縄をなったと話した．でんでん太鼓のプロンプトを手にして，両手で鳴らしていた．D 氏は写真のつづらを見て，「藁だから温かい，中には藁くずが入っていて温いから赤ちゃんはその中で寝てしまう」と話す．F 氏はおんぶひもを見て「自分もおんぶしたよ」と話す．でんでん太鼓を手にとって鳴らした．参加者と子守歌を一緒に歌った．H 氏は自分は母乳があまり出なかった．田んぼへ耕耘機に子どもを乗せていったと話した．

テーマ・山の幸について，A 氏はプロンプトのあけびを見てあけびを見て「もうちょっとたたないと食べられん，まだ早い」と話した．B 氏はあけびの実を食べると「甘い」と話す．いが付きの栗を見て「かわいい」と言う．C 氏は柿を見て「水島の柿じゃないかね．家には柿の木が 2・3 本あった」と話した．D 氏は「渋柿を食べたら便通が悪くなる」「柿は身体が冷える」と話した．F 氏はくずの花の匂いをかいで「いい匂いするわ」と話した．H 氏は「あけびは高いところにあり，木に登って取っていた．渋柿は食べると腹が痛くなる」と話した．

テーマ・縫い物，編み物，縄編みについて，A 氏は実際にわらが出てくると，数本とって，縄をとても真剣な表情で縫い始めた「若いときは朝出かける前に縄ぬいをした」と話した．B 氏はテーブルの上のススキを見て「俺は河原の枯れススキ」の歌を歌い出した．ぞうりやわらじを他の参加者が履いているのを見て，麦踏みを子どもの頃にした話を思い出し話した．C 氏はわらを 5～6 本渡すと，膝の下に縄をはさんで，上手に縄を編んだ．わらを柔らかくするのに，わら打ちをする」と言い，「自分の家は大百姓だった」と苦笑した．D 氏はわらじをはいてT町からM町まで歩いた話をする．藁の匂いをかぐと「懐かしい」との言葉が出た．F 氏は縄編みは行わず，周囲の人が縄あみするのを見ていた．H 氏は少しずつしっかりとわらをねじりながら，なわを作っていった．

（3） 平成17年春のプログラム　参加者A氏，C 氏，E 氏，F 氏，G 氏，H氏の反応

テーマ・子供の頃の遊びについて，A 氏は何回もコマのひもを巻き直して，巻き直した段階でコマを回し，参加者から拍手され，笑顔が出る．お手玉の話題中もコマにひもを巻いていた．E 氏は他の参加者がコマ回しに失敗した時に「今度はもっと上手になるね」と声をかける．参加者がお手玉の作り方を話すのをじっと聞いていた．F 氏は「コマは木を削って，昔は自分の家で作った」と話した．G 氏は，お手玉の縫い方について「舟形に縫う．4 枚の布を合わせて舟形にするんや」と手真似で教えてくれた．H 氏は，「お手玉を作ったことがある」「中に豆を入れたらよく鳴る」と話した．

テーマ・富山の薬売りについて，薬箱を開けて「いろんな薬が入っとる」，一つの薬を手にして「昔飲んだことあるよな気がする」と話した．C 氏は薬箱を見て「桐の箱や．知っている薬の販売会社の名前を見て「大きい会社やよ」と言う．「効くか効かないかわからないけど，あると安心や」と話した．E 氏は薬の袋を持って，隣の人に見せ

て「飲んだね」と話しかける．虫下しの袋に書いてある虫の絵を見て「怖いね」と話した．F 氏は薬を見せられて「飲んだねえ」とうなずく．膏薬を貼ったときに「かぶれて赤くなったことがある」と話した．G 氏は「富山の薬売りは全国回っとる」「紙風船を子どもの遊びに置いていくんや」「越中富山のあんぽんたん，鼻くそ丸めてあんきんたん，それを飲む奴あんぽんたん」と話した．H 氏は虫くだしの薬を手にして，「この薬を飲むと虫が下がっていくのがわかった」と話した．

テーマ・梅干しについて，A 氏は「梅をとるのは男の仕事，梅干しを作るのは女の仕事」と話し，梅干しの実を手にした．C 氏は「申年の梅は病気が去る」とリーダーが話すと大きな声で笑う．梅干しを入れておく瓶を持って「思ったより重たい」と話した．E 氏は梅作りの話で「これを塩につけて，瓶に入れて･･･」と手順について次々と話す．陰干しする理由は「天日に干したら小さくなってしまうでしょ」と話した．F 氏は本物の梅が出てきたとき「あらあ」と発言し，しその実を口に入れて「おいしい」と話した．G 氏は梅干しの歌の内容を聞いて，梅干しの作り方について色々説明する．「梅干しはなくてはならんもん，家の一つの道具，大事なもんや」と話した．H 氏は梅干しを昔つけたかと聞かれると「つけた，つけた，今もつけとる．」「梅干しは朝食べて夜は食べない」と話した．

（4） 平成17年秋のプログラム　参加者A氏，C 氏，F 氏，G 氏，H氏の反応

テーマ・稲刈りについて，A 氏は稲穂を手にして「たいがい長いね」，田んぼの写真を眺めて「はさがけしとる」と話す．「自分の田舎ではよく米がとれた」と話した．C 氏は「稲刈りの後，はさがけを天気が良ければ 2～3 日していた」と話す．米俵を担ぐ時は，背中にしょってかつぐ仕草をした．F 氏は，稲穂の匂いをかいで「ちょっと匂いがする」と言う．「昔は玄米を買い家で一升瓶に入れ精米した」と話す他者の発言をじっと聞いていた．G 氏は「漁師の子やから稲刈りはせんかった」と話した．H氏は「昔は玄米を買い家で一升瓶に入れ精米した」「米は農協に出していた」と話した．

テーマ・新米について，A 氏はお釜を手に取り「立派なお釜」と言いじっくり眺める．一升升を手に取り「きれいに削ってある」とじっと見ている．新米のおにぎりを一個おいしそうに食べる，隣のスタッフにもおにぎりを勧めた．C 氏はご飯炊きの会話の中で「火吹き竹を使ってよくご飯を

表２　回想法で用いるプロンプトに対する対象の言動　※各対象の括弧内の数字は回想法前後の MMSE 得点を示す

期間	テーマ	プロンプト	A氏 (MMSE前19→後25)	D氏 (MMSE前19→後19)	F氏 (MMSE前15→後16)
平成16年春	新緑	菖蒲、カラスノエンドウ、写真（山、ツツジ）	「菖蒲を手にとって湯の中に入れる、5 月にやる、よう入った」	体調不良で欠席	カラスノエンドウを口にくわえて自ら吹こうとする、菖蒲を見て「菖蒲やろ」（匂いをかいで）「匂いがちょっとする」
	郷土料理	すし桶、笹、写真（じぶ煮、きゃらぶき、鯖寿司）、山椒	ハンカチを笹に見立てて、すし桶の中にすしを作って入れた	「押し寿司の鯖は酢、砂糖、塩で味をととのえる」、「山椒はよく食べた」と言って、山椒を口に入れ最後まで味わっていた	スタッフが押し寿司の作り方を尋ねると「はい」や「うん」の返事を返すのみであった
	夏の風物	蚊帳、蚊取り線香、浴衣、うちわ、風鈴	風鈴を手渡すと、「風鈴や」と言って何度も揺らして「いい音がする」と言う。うちわに書かれた蛍を見て「小さいのが川におった」	蚊取り線香や蚊帳を見て「大きいね、みんな入るの大変や」「私の血はおいしくないよ」と笑顔で話す	風鈴を手にして、うれしそうな表情で、風鈴を揺らして音を出している。うちわに書かれた蛍を見て蛍の歌をみんなと一緒に歌う
	お手伝い	ほうき、買い物かご、日本手ぬぐい、雑巾、おんぶひも	「小学校の時、縄をなってお金をもろうた」と全身で縄をなう仕草をする	紫色の買い物かごを見て「野菜ものを買って買い物かごに入れた」と話す。手ぬぐい雑巾を見て「家中の板の間を縦横に何回か拭いた」と言う	参加者の一人が二宮金次郎の歌を歌い出すと、一緒に口ずさむ
	駄菓子	駄菓子、ラムネ	ラムネの栓をスタッフと一緒に開けるとき、とても興味のある表情をする	ドロップスの缶を見て「よく食べた。今はこんなん売ってない」と話す	ラムネをおいしそうに飲む

期間	テーマ	プロンプト	A氏 (MMSE前23→後24)	B氏 (MMSE前19→後19)	C氏 (MMSE前25→後20)	D氏 (MMSE前23→後20)	F氏 (MMSE前15→後14)	H氏 (MMSE前16→後13)
平成16年秋	子育て	おんぶひも、でんでん太鼓、子守歌、写真（土間での縄ない風景）	「つづらで、この中で子どもは喜んどった」、縄ないをしている女性の写真を見て、「おしりにあんだ縄を敷いていく」と解説する	「母乳はあまり出なかった」子どもがつづらに入っている写真を見て「次郎物語みたい」と話す。子守歌を口ずさむ	「母乳で育った」、縄ないをしている女性の写真を見て、「縄をなった」、でんでん太鼓を両手で鳴らす	写真のつづらを見て「藁だからあったかい、中には藁くずが入っている。ぬくいからその中で赤ちゃんは寝てしまうんや」と話す。	おんぶひもを見て「おんぶしたよ」と笑顔で言う。でんでん太鼓を手に持って鳴らす。参加者と子守歌を一緒に歌う	「自分は母乳はあまり出なかった」「田んぼへ耕耘機に子どもを乗せていった」
	山の幸	栗、あけび、柿、くずの花、写真（まつたけ）	あけびを見て「もうちょっとたたないと食べられん、まだ早い」	あけびの実を食べると「甘い」と話す。いが付きの栗を見て「かわいい」と言う	柿を見て「水島の柿じゃないかね。家には柿の木が2・3本あった」	「渋柿を食べたら便通が悪くなる」「柿は身体が冷える」と話す	くずの花の匂いをかいで「いい匂いするわ」	あけびは高いところにあり、木に登って取っていた。渋柿は食べると腹が痛くなる」と話す
	縄い物、編み物、縄ない	わら（ぞうり、わらじ）、くけ台、編み針	実際にわらが出てくると、数本とって、縄をとても真剣な表情で作り始めた。「若いときは朝出かける前に縄ないをした」	テーブルの上のススキを見て「俺は河原の枯れススキ」の歌を歌い出す。ぞうりやわらじを他の参加者が履いているのを見て、麦踏みを子どもの頃にした話を思い出し話す	わらを5･6本渡すと、膝の下に縄をはさんで、上手に縄をなっている。わらを柔らかくするのに、わら打ちをする」と言う。「自分の家は大百姓だった」と苦笑する	わらじをはいて4里は歩いた話をする。藁の匂いをかぐと「懐かしい」との言葉が出る	縄ないは行わず、周囲の人が縄ないをするのを見ていた	少しずつしっかりとわらをねじりながら、なわを作る

期間	テーマ	プロンプト	A氏 (MMSE前17→後25)	C氏 (MMSE前22→後23)	E氏 (MMSE前15→後18)	F氏 (MMSE前17→後12)	G氏 (MMSE前14→後13)	H氏 (MMSE前13→後9)
平成17年春	子供の頃の遊び	お手玉、コマ、ゴム跳びのゴム、メンコ	何回もコマのひもを巻き直して、巻き直した段階でコマを回し、参加者から拍手され、笑顔が出る。お手玉の話題中もコマにひもを巻いている	欠席	参加者がこま回しに失敗した時に「今度はもっと上手になるね」と声をかける。参加者がお手玉の作り方を話すのをじっと聞いている	「コマは木を削って、昔は自分の家で作った」と言う	お手玉の縫い方について「舟形に縫う。4枚の布を合わせて舟形にするんや」と手真似で教えてくれる	「お手玉を作ったことがある」「中に豆を入れたらよく鳴る」と話す
	富山の薬売り	薬箱、薬、紙風船	薬箱を開けて「いろんな薬が入っとる」、一つの薬を手にして「昔飲んだことあるよな気がする」と話す	薬箱を見て「桐の箱や。知っている薬の販売会社の名前を見て「大きい会社やよ」と言う。「効くか効かないかわからないけど、あると安心や」と言う	薬の袋を持って、隣の人に見せて「飲んだね」と話しかける。虫下しの袋に書いてある虫の絵を見て「怖いね」と話す	薬を見せられて「飲んだねえ」とうなずく。膏薬を貼ったときに「かぶれて赤くなったことがある」と話す	「富山の薬売りは全国回っとる」「紙風船を子どもの遊びに置いていくんや」「越中富山のあんぽんたん、鼻くそ丸めてあんきんたん、それを飲む奴あんぽんたん」と話す	虫くだしの薬を手にして、「この薬を飲むと虫が下がっていくのがわかった」
	梅干しの話	梅、干しざる、しその葉、ビン、梅干しの歌、梅の一生の写真	「梅をとるのは男の仕事、梅干しを作るのは女の仕事」と話す。梅干しの実を手にする	「申年の梅は病気が去る」とリーダーが話すと大きな声で笑う。梅干しを入れておく瓶を持って「思ったより重たい」と話す	梅作りの話で「これを塩につけて、瓶に入れて･･･」と手順について次々と話す。陰干しする理由は「天日に干したら小さくなってしまうでしょ」と話す	本物の梅が出てきたとき「あらあ」と発言し、しその実を口に入れて「おいしい」と言う	梅干しの歌の内容を聞いて、梅干しの作り方について色々説明する。「梅干しはなくてはならんもん、家の一つの道具、大事なもんや」と話す	梅干しを昔つけたかと聞かれると「つけた、つけた、今もつけとる。」「梅干しは朝食べて夜は食べない」と話す

期間	テーマ	プロンプト	A氏 (MMSE前23→後17)	C氏 (MMSE前19→後22)	F氏 (MMSE前14→後9)	G氏 (MMSE前11→後11)	H氏 (MMSE前5→後0)
平成17年秋	稲刈り	稲穂、農耕具の写真	「今日誕生日」と話す。稲穂を手にして「たいがい長いね」、田んぼの写真を眺めて「はさがけしとる」と話す。「自分の田舎ではよく米がとれた」と話す。	「稲刈りの後、はさがけを天気が良ければ2,3日していた」と話す。米俵を担ぐ時は、背中にしょってかつぐ仕草をする	稲穂の匂いをかいで「ちょっと匂いがする」と言う。「昔は玄米を買い家で一升瓶に入れ精米した」と話す他者の発言をじっと聞いている	「漁師の子やから稲刈りはせんかった」と言う	「昔は玄米を買い家で一升瓶に入れ精米した」「米は農協に出していた」と話す
	新米	新米、お釜、一升ます	お釜を手に取り「立派なお釜」と言いじっくり眺める。一升升を手に取り「きれいに削ってある」とじっと見ている。新米のおにぎりを一個おいしそうに食べる、隣のスタッフにもおにぎりを勧める	ご飯炊きの会話の中で「火吹き竹を使ってよくご飯を炊いた」と話す。お釜のふたを手にとって「しっかりしたふただな」と話す。新米のおにぎりを食べて「熱いけどおいしかった」と笑顔で話す	お釜を見て「よう炊いた」、新米を触って「おいしそうや」、お釜に米を入れて米を洗う実演をする。新米で作ったおにぎりを少しずつ食べる	「新米は柔らかくて艶気があるよ。」、お釜を見て「昔あんな釜に水を入れて、にごしがなくなるまで米をといだ」、お釜のふたを見て「ふたが重たいほどご飯がおいしい」、おにぎりを食べるときは「艶気があってうまい」と言った	「家では一升くらい炊いて10人分は食べれた」と話す。お釜に入れたときの水は「手で測った」と話す。おにぎりを手に持ち「おいしい」と話す。「新米食べたら長生きする」と言われて笑顔がみられる

炊いた」と話す．お釜のふたを手にとって「しっかりしたふただな」と話す．新米のおにぎりを食べて「熱いけどおいしかった」と笑顔で話した．F 氏はお釜を見て「よう炊いた」，新米を触って「おいしそうや」，お釜に米を入れて米を洗う実演をする．新米で作ったおにぎりを少しずつ食べた．G 氏は「新米は柔らかくて艶気があるよ.」，お釜を見て「昔あんな釜に水を入れて，にごしがなくなるまで米をといだ」，お釜のふたを見て「ふたが重たいほどご飯がおいしい」，おにぎりを食べるときは「艶気があってうまい」と話した．H氏は「家では一升くらい炊いて 10 人分は食べれた」と話す．お釜に入れたときの水は「手で測った」と話す．おにぎりを手に持ち「おいしい」と話す．「新米食べたら長生きする」と言われて笑顔がみられた．

３．３　プロンプトがもたらした反応

（１）音の刺激をもたらすプロンプトへの反応

夏の風物詩としての風鈴は，回想の部屋に静かに鳴り響き，参加者は口々に，いい音色，昔，家の軒先にあったなどの発言が聞かれた．

（２）食べ物のプロンプトへの反応

稲穂を触って，新米を実際に炊いてその場で食べる回想の場面では，実家が村一番の百姓という発言があったり，新米のつやのよさ，寿命が延びるなどの発言が口々にでて，日頃食欲のない参加者もじっくり味わっていた．おにぎりを急いで食してむせが起こり，隣の参加者が背中をさするという行為が生まれた．

（３）ものを作る工程を回想するプロンプトへの反応

梅干し作り，押し寿司作り，保存食作り，草鞋作りの工程を回想法の中で参加者で共に手を使って実体験することは，そのもの作りにまつわる歌を口ずさむ参加者につられて，発言の少ない参加者も歌い始めることが何度もあった．

３．４　プロンプトの反応と MMSE 得点との関係について

A，B，C，D，E 氏においては回想法開始時に MMSE が 15 点以上であり，F, G, H 氏は MMSE が 14 点以下であった．A～E 氏においては，プロンプトを手がかりに自己の体験を話すなど，広がりのある回想が聞かれた．F～H 氏においては，視覚情報だけでは回想にまつわる発言は少なかった．ただし，音を楽しむ，食べ物を味わう，香りを楽しむなど，五感刺激を手がかりとしたプロンプトへの感想を聞くことはできた．

４．考察

２年間の回想法での観察記録の分析から，プロンプトと MMSE 得点との関連，プロンプトに対する対象の言動，プロンプトがもたらした反応に関する考察を以下に述べる．

４．１　プロンプトとＭＭＳＥ得点との関連

回想法開始時にMMSEが15点以上の参加者はプロンプトを手がかりに自己の体験を話すなど，

広がりのある回想が聞かれた．MMSE が 14 点以下の参加者は視覚情報だけでは回想にまつわる発言は少なかった．ただし，音を楽しむ，食べ物を味わう，香りを楽しむなど，五感刺激を手がかりとしたプロンプトへの感想を聞くことはできた．MMSE 得点では評価しきれない側面として，グループメンバー全員に合致したプロンプトを用意することは困難な点がある．一方，プロンプトによって引き出されたグループメンバーからの発言が，予期せぬ効果をもたらすこともある．

４．２　季節を意識したプロンプトの提供

その時期，その季節に応じたプロンプトを提供することによって，参加者における季節あるいは時間の見当識のずれが，現実のものに近づいてくると考えられる．１回の回想法 60 分という時間の中で，参加者が五感を使って感じ取れるようなプロンプトの提供が思考を引き出すと考えられる．

４．３　手続き記憶を意識したプロンプトの提供

子供の頃の遊び道具（たとえば男の子であればコマ，女の子はお手玉など）を手にすることによって，遊んだときの仕草が自然に現れてくる．それが刺激となって，お手玉でどんな遊びをしたか，どこでだれと遊んだかなど，さまざまな記憶が想起され，プロンプトが手続き記憶を介して話をさらに広げていくと考えられる．

４．４　認知度の障害の程度に応じたプロンプトの提供

障害の程度がさまざまなグループにおいて，まず認知度の障害の低い人になんらかの反応が得られるようなプロンプトを提供する．その人のプロンプトへの反応や話を，障害の高い人が見たり聞いたりすることで，障害の高い人でもなんらかの

反応が得られることがある．また，参加者の一人がテーマから派生して，歌を歌い始めたとき，認知度の障害が高い人がその歌に反応して歌い始めるということもよくある．このような場合，最初に歌われた歌がプロンプトそのものになっていると考えられる．グループ内で自然に発生するプロンプトもあり得ると考える．

認知度の障害の程度に応じて，グループ回想法のメンバーの状況を見ながら，回想法のリーダーは，テーマに応じたいくつかのプロンプトを準備し，どのプロンプトがこのグループで刺激として適切かを見極めながら提供していくことも重要である．

５．まとめ

今回の研究では，回想法で用いるプロンプトが認知症高齢者におよぼす影響を分析することが目的である．グループ回想法 34 回の場面の参加者のプロンプトへの反応記録 169 シートの中から，特徴的な発言を取りだし，分析した．

１．回想法開始時に MMSE が 15 点以上の参加者はプロンプトを手がかりに自己の体験を話すなど，広がりのある回想が聞かれた．MMSE が 14 点以下の参加者は視覚情報だけでは回想にまつわる発言は少なかった．ただし，音を楽しむ，食べ物を味わう，香りを楽しむなど，五感刺激を手がかりとしたプロンプトへの感想を聞くことはできた．

２．音の刺激をもたらすプロンプトへの反応は，夏の風物詩としての風鈴が回想の部屋に静かに鳴り響き，参加者は口々に，いい音色などの発言が聞かれた．

３．食べ物のプロンプトへの反応としては，稲穂を触って，新米を実際に炊いてその場で食べる回想の場面で，実家が村一番の百姓という発言があったり，新米のつやのよさ，寿命が延びるなどの発言が口々にでて，日頃食欲のない参加者もじっくり味わっていた．おにぎりを急いで食してむせが起こり，隣の参加者が背中をさするという行為が生まれた．

４．ものを作る工程を回想するプロンプトへの反応：梅干し作り，押し寿司作り，保存食作り，草鞋作りの工程を回想法の中で参加者で共に手を使って実体験することは，そのもの作りにまつわる歌を口ずさむ参加者につられて，発言の少ない参加者も歌い始めることが何度もあった．

謝辞

本研究において，インタビューにご協力いただきました，高齢者とその家族の皆様，病院･施設のケアスタッフの皆様に心から感謝申し上げます．

参考文献（引用文献）

1）野村豊子：回想法；理論・実際・倫理，日本認知症ケア学会誌，5(1)，96-101，2006

2）細川淳子，佐藤弘美，高道香織，他：痴呆性高齢者のグループ回想法実施時における表情の特徴，日本老年看護学会学会誌：81，2003.

3）佐藤弘美，金川克子，天津栄子，他：認知症高齢者のグループ回想法場面の編集映像がもたらす家族やケアスタッフへの効果，日本老年看護学会誌，10(1)，105-115，2005.

4）田高悦子，金川克子，天津栄子，他：認知症高齢者に対する回想法の意義と有効性－海外文献を通して－：日本老年看護学会誌，9(2)，56-63. 2005.

5）松田修，黒川由紀子，齋藤正彦，他：回想法を中心とした痴呆性高齢者に対する集団心理療法痴呆の進行に応じた働きかけの工夫について：心理臨床学研究，19，566-577，2002.

6）平林美保，水谷信子：痴呆性高齢者に対する新たなグループケアプログラムの開発－セッションの場で起きたこと，引き出された力－：日本老年看護学会誌，7(2)，44-56，2003.

（受付：2006 年 11 月 10 日，受理：2006 年 12 月 28 日）

Effect of Prompts Used in the Reminiscence Method on the Elderly with Dementia

Hiromi SATO, Eiko AMATSU, Katsuko KANAGAWA, Etsuko TADAKA, Ikuko SAKAI, Junko HOSOKAWA, Mamiko ITO, Yuka MATSUDAIRA, Sachi MOTOO

Abstract

The authors analyzed the effects of prompts presented to elders with dementia as a reminiscence method. Participants' characteristic remarks in response to prompts, obtained from 34 group reminiscence sessions, were selected from a total of 169 response records. Of those records, ones indicative of heightened thought activities and interpersonal communication were selected and analyzed. Participants made various comments in response to prompts which produced sound. Even participants who usually had little appetite enjoyed food tasting, touching ingredients and actually cooking on site. Reacting to prompts that reminded them of the process of making things, e.g. pickling Ume (Japanese plums) or straw sandals by hand, the group actually retraced the process by gesturing with their hands. Even subjects who usually spoke little began to sing repeatedly, in unison with others, songs associated with the making particular things. Participants, whose MMSE scores were 15 points or higher at the beginning of the group reminiscence therapy, spoke about their own experiences cued by prompts, itself a reflection of improved memory. Participants whose MMSE scores were below 14 points did not reminisce much in the presence of visual prompts. However, some comments were made in response to sensory stimuli such as listening to music, tasting food, enjoying fragrance, etc.

Keywords the elderly with dementia, group reminiscence method, prompts